

抗不安薬を長期間（3か月以上）服用している患者さんへ

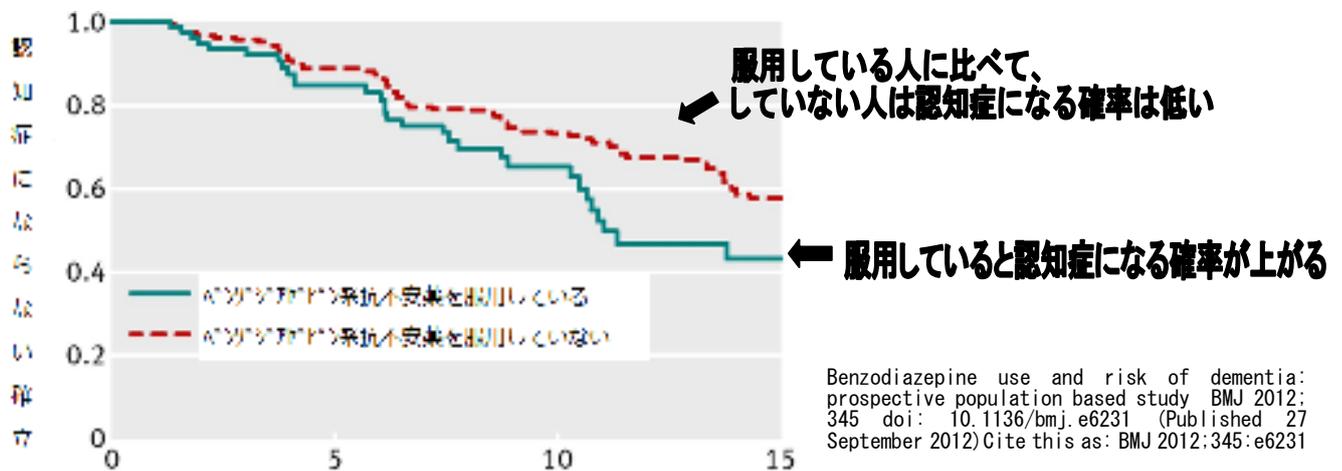
2013年1月

みどり病院・すこやか診療所・華陽診療所・こがねだ診療所

【長期間服用のリスク】

最近の研究で、ベンゾジアゼピン系抗不安薬（いわゆる安定剤）は、**長期間服用すると**以下の様な問題が生じることがわかってきました。

- ①依存（薬がないと困る）が生じる
- ②認知機能（記憶力の低下、集中力・注意力など）の低下がおきる
- ③転倒のリスクが **1.6 倍**になる
- ④交通事故をおこすリスクが **1.6 倍**になる
- ⑤認知症になるリスクが **1.6 倍**になる



この薬を長期に服用することはおすすめできません。

【対症療法と根治療法の違い】



抗うつ薬などの継続投与により不安そのものが減少し、治療を終了することが可能。

【中止していく際の注意事項】

薬を減量・中止していく時に、中止後症状（抗不安薬の中止による体調変化）と呼ばれる以下の症状が現れる場合があります。

手足の震え・不眠・不安・頭痛 などの症状

- 突然の中止は、だんだん減らした場合より症状が強く出ることがあります。
- 患者さんの状態を観察しながら医師が薬を減らす時期を調整します。
自分の判断で飲む量を減らしたり服用を中断したりしないでください。
- 上記以外でも、いつもと違う症状が出た場合は主治医・薬剤師に相談してください。

減量・中止がむずかしい場合は、精神科（専門医）の受診をお勧めします。
疑問点・心配なことなどありましたら、主治医・薬剤師にご相談ください。